

## 令和6年度 小林市立東方小学校 自己評価及び学校関係者評価書

4段階評価（4：期待どおり 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要する）

学校経営 ビジョン	「高い知性と豊かな心を持ち、心身共に健康で、互いに磨き合い高め合い、たくましく生き抜く児童生徒の育成」を目指し、9年間を見通した東方中学校との一貫教育を基盤に、支援学校との交流の充実も図りながら、本校の歴史や伝統、地域や保護者の思いや願い、児童の実態等を踏まえ、全職員が持てる力を存分に発揮し、主体的に参画する学校経営を実施する。【子どものつよさや可能性を最大限に引き出し、鍛え、伸ばす教育活動の創造】							
項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段		数値目標	結果の考察・分析及び改善策等	自己評価		関係者評価	学校関係者評価のコメント
知 育 向上	学 力 の 向 上	I C T の効果的な活用 1 教育効果の高まる指導法の工夫（日常的なタブレットの活用、デジタルドリルの活用など）	タブレット P C 各学年週8時間以上	どの学年も日常の授業で頻繁にタブレットを活用しており、週8時間以上は、ほぼ達成している。全学年デジタルドリルが導入されており、補充学習等で児童が積極的に活用する姿が見られる。週末・夏休み・冬休みに家庭へのタブレット持ち帰りを実施し、積極的に家庭での課題に活用できた。	3.6	3.5	3.3	・毎週タブレットを持ち帰り、技術向上を図っていた。 ・授業でも活用し、家庭でも持ち帰り課題に活用してすばらしい。 ・地域人材、素材活用はとても良いことです。 ・新聞などの投稿も増え、楽しみです。 ・タブレットは現代社会には必要不可欠、人並みにできるよう。ただ、目や睡眠不足等、心配なので、寝る2時間前くらいにはしてほしくない。
		日々の授業の充実 2 個人に応じたきめ細かな指導の徹底 ・主体的・対話的で深い学びの充実のための指導の工夫	学力調査分析全学年100%	校内の主題研究において、研究主任を中心にNRTテスト、全国学力・学習調査、みやざき学力調査の分析を計画的に行ない、本校児童の弱みとなっている学習内容について再度問題に取り組ませ、学力向上を図った。また、主体的・対話的深い学びに関するアンケートによる実態把握を行い授業改善を図った。特に、今年度はデジタルドリルの活用を図り、児童の理解度に応じた個別最適な学びの充実を図っている。	3.1	3.4		
	読書の推進	読書の推進 3 よんみろ会、学級担任等による読み聞かせ ・家庭読書の推進 ・図書館協力員との連携	読書量前年比プラス	本年度も夏休み・冬休み期間中に、PTA文化部と協力して、「家読（うちどく）」という企画を実施した。家庭からも児童からも好評を得た。また、図書館まつりや読書玉入れ、読書ビンゴを開催したり、給食時の放送で図書委員会が本の紹介を定期的に行ったりしたこと、時期による貸出冊数の低下を防いでいる。	3.5	3.7		
		地域人材、素材の活用及び一部教科担任制 4 関係機関、英語専科との連携 ・東方地区的キャリア教育、文化財の活用	地域人材、素材の活用	英語専科教員、ALTによる授業の充実を図っている。地域素材であるオヨドカワゴロモを活用した授業など、外部の有識者（市税務課、県総合博物館、トヨタ自動車）を活用した授業を行った。今後も、外部人材を活用した体験活動など積極的に実施していく。	3.5	3.6		
徳 育 の 充 実	心 の 教 育 の 充 実	道徳科の指導の充実 1 心を耕す授業の工夫、体験の場の工夫 ・デジタル教科書の有効活用	道徳科の時間の充実支援学校との交流活動の実践	道徳科を中心に、学校生活全般において「道徳性」を養う指導を行っている。道徳科では、デジタル教科書を有効に活用したり、道徳ノートに学びの足跡を残したりすることで、道徳的な判断力や心情、実践意欲を高めている。また、こすむ支援学校とのふれあい交流や交流清掃等を通じて、多様性を認める心情が高まっている。	3.3	3.8	3.6	・常に講話を計画しており、子どもたちの聞く姿勢ができていた。 ・支援学校との交流活動の実践、いじめ・不登校防止、挨拶の定着、設備の安全点検、子ども達が安心して過ごせる環境です。 ・東方の特徴である支援学校との交流は続けてほしい。
		定期的な教育相談の実施と見届け 2 ラボートフォーラムの充実 ・全職員で行ういじめ・不登校対策の徹底	いじめ・不登校の未然防止100%	本年度：いじめ1件、不登校傾向0件 市教委、チーフコーディネーター、スクールカウンセラー、通所施設等に早めに相談し、学校全体で支援体制を整えている。校内支援体制については、月1回の人権アンケートやラボートフォーラムにおいて、児童の状況の共通理解を進めるとともに、場合に応じて臨時支援委員会を開催するなど充実している。	3.5	3.4		
	支援学校との連携によるインクルーシブ教育の推進 3 交流清掃、ふれあい交流、各種行事等	計画の実施率80%以上	支援学校との交流については、計画通りに「ふれあい清掃」、「ふれあい交流」、「持久走大会」が実施できた。特に、本年度は「合同体育大会」が実施できた。活動を通して児童の連帯感を深めることができ、他者を受け入れる姿勢に高まりがみられる。	3.6	3.5			
		時と場に応じたけじめある行動と危険予知能力の育成 4 成 ・完全無言、挨拶会釈（定着率100%）	完全無言、挨拶会釈（定着率100%）	運営委員会が作成した年間目標のもと、完全無言・右一静歩・挨拶・立腰指導を全校で取り組んだ。朝のボランティア活動により、学校の環境美化が図られている。完全無言・右一静歩については、今後も継続した指導が必要である。	3.6	3.7		
		自他の生命やきまりを守る指導の徹底 5 安全な登下校指導 ・施設の安全点検	安施設、設備の安全点検（100%実施）	通学路点検を実施するとともに、集団下校や登校班などを通して安全な登下校ができるように指導してきた。本年度も児童に予告しない避難訓練を実施し、危機意識を高め、自ら命を守る態度を育てることができた。施設、設備の安全点検は、計画通り100%実施できている。	3.6	3.6		
体 育 の 向 上	体 力 の 向 上	体力の向上 1 体育の授業の充実と運動量の確保 ・三校合同大運動会の充実 ・持久走、なわとび運動の推進	体力テストの前年比アップ	令和6年度の体力テストの結果は平年並みであった。三校合同運動会、持久走大会が計画どおり実施でき、交流を深めながら充実した大会が実施できた。業間の持久走練習、体育での縄跳び運動が計画どおりに行われ、児童の体力増進が図られている。	3.5	3.6	2.9	・季節ごとに運動内容を変えており、体力向上が体力向上が図られていた。 ・外遊びがもう少しきだたらよい。 ・虫歯治療率、高めてほしい。 ・通学手段を集団登校なり、歩くよう勧める。
		運動を楽しむ態度の育成 2 昼休み時間の外遊びの奨励	外遊び定着度80%	昼休みに運動場で同学年や異学年の児童と仲良く遊ぶ姿が多く見られた。様々な運動に親しみ、日常的な体力向上や肥満の解消につながっている。夏場は気温が高く、外遊びが実施できない日が多かった。	3.3	3.5		
	立腰指導の徹底 3 授業開始・終了 ・時と場に応じた指導	話を聞く態度の育成 立腰100%	普段の授業、集会等をとおして定着を図っている。全教室に立腰のポスターを掲示し、児童運営委員会のメンバーも呼びかけを行っている。長時間姿勢を保持できる児童が増えてきたが、今後も継続した指導が必要である。	3.1	3.6			
		健康的な保持増進 4 むし歯治療、フッ化物洗口の推進 ・むし歯治療、フッ化物洗口の推進 ・歯磨き指導の徹底 ・早寝・早起き・朝ごはん	むし歯治療90%以上 フッ化物洗口100%実施	フッ化物洗口はほぼ計画通り実施できている。虫歯治療については、保健体育部を中心に啓発を図っているが、現段階での虫歯治療率68.6%である。また、各種感染症に備え、感染対策を継続してきた。今後も継続して感染症予防に取り組んでいく。	3.5	3.7		
		食育の推進 1 食育週間の実施 ・年3回	食育チャレンジ週間の各家庭での実施100%	5月「食育にチャレンジ」、8月「食の贋り物in夏休み」を実施した。熱心な取組が数多く見られ、食に関する意識を高めることができた。3月の遠足で「食育にチャレンジ」等を実施予定である。家庭もよく協力していただけており有難い。	3.5	3.8		
その他	学校頼 づさ くれ りる	地域への愛着につながる食育指導 2 郷土料理・地産地消を取り入れた調理、体験活動		給食の食材納入業者に協力していただき「給食感謝集会」を12月に実施できた。地域食材や地域そのものへの愛着につながる、実感を伴う学びとなった。	3.2	3.6	3.3	・地産地消をねらい通りに行っていた。 ・肥満対策は家庭で行うべきである。 ・稲作り、さつまいも栽培→焼き芋大会、花壇でもできる夏野菜など、自分で育てる楽しみや苦労など体験してほしい。 ・グリーンカーテン（ゴーヤ、ヘチマなど）
		生産者への感謝の気持ちの育成 3 生活科、こすもす科、感謝集会等による指導		生活科やこすもす科等と関連させて、生産者への感謝の気持ちを育てる指導を行っている。	3.2	3.6		
		肥満対策 4 食に関する研修や授業等の実施	残食ゼロ 外遊び定着100%	各学年残食を減らす努力を行い、バランスの良い食生活指導を徹底している。本校の残食は、ほぼ0である。	3.0	3.4		
		働き方改革による風通しの良い職場環境づくり 1 全職員で知恵を絞り、汗をかき、喜ぶチーム意識	服務規律の遵守 100%	日常の声かけ、研修等により、教職員のコンプラインス意識は高く維持されている。職員同士のコミュニケーションが円滑に行われ、風通しの良い職場環境が構築されている。	3.3	3.4		
次年度の方向性についての校長所見		学校の支援体制の確立 2 学校運営委員会、青少年育成市民会議、KSSVC等との連携	各委員会100%実施	学校運営委員会、青少年育成市民会議は計画通り実施できている。学校に対する貴重なご指導、ご助言をいただきこぎとができた。KSSVCやキャリア教育支援センターと連携し、協力関係を深めている。	3.3	3.6	3.6	・150周年記念はすばらしかった。 ・150周年記念事業企画は大変良かった。有難うございました。 ・一人一人と向き合う支援クラスがよかったです。 ・創立150周年、手作り感があり温かく地元の方に参加されてよかったです。もう少し地区の参加があるとよかったです。まち協さんで東方地区的収穫祭、フリーマーケットなどの企画してほしい。
		魅力ある参観授業と学級懇談会の実施 3 創立150周年記念事業の実施 ・地域と連携した企画、運営	授業参観率85% 学級懇談率80%	本年度も予定していた学校参観日をすべて実施し、授業参観率、懇談出席率が概ね70%を超えていた。目標値には届いていないが、保護者の学校に対する協力体制はできている。	3.3	3.5		
		実行委員会、現PTA役員、地域住民、職員で連携し、創立記念行事を盛大に実施することができた。児童にとっても心に残るイベントとなつた。参加者からも満足の声が聞かれた。	3.6	3.7				
		保護者や地域に支えられ、充実した活動ができ、児童の心身の成長につながり、さらに地域に開かれ、つながる学校として取り組んでいく。次年度の取組の方向性としては、 ①自ら考え判断し、責任を持つ主体的な態度を養うため、自己決定を行う活動を多く取り入れる。学校と家庭とが取り組む課題を分け、PTAや地域の力を借りながら、課題に取り組んでいく。 ②(知) 読解力・表現力の育成を図り、条件や文字数に応じた記述する力を高める活動の充実を図るとともに、タブレット端末の平日の持ち帰りを行う。次年度も児童の読書につながる取組を行い、児童の読書習慣や読書スキルの向上を図る。 ③(徳) 困難のある児童に寄り添い、温かみのある居場所づくりを推進していくとともに、特別支援学校と連携したインクルーシブな学校運営を推進していく。 ④(体) 全校児童の外遊びの奨励や児童の自力登下校の推進により肥満傾向や運動不足の解消に努める。⑤地域等への情報発信、啓発の充実						